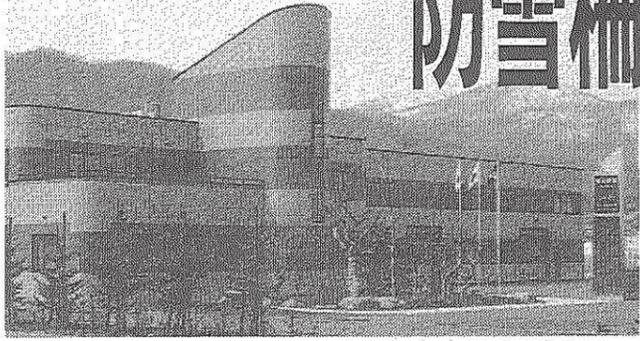


防雪柵の進化とともに55年 理研興業(株)



常に新しい発想で製品開発を続ける理研興業の本社社屋

母体として新理研工業(株)が、同30年10月、新理研工業(株)として昭和24年(1949年)に発足。理研系各社製品の販売を担う。順調に推移して、同30年10月、新理研工業(株)が大規模な合併による合併会社として発足。合併後、同30年11月、小樽に本社を置く理研興業(株)が誕生。38年に世界6カ国で特許取得した「理研クロスホルト」を開発し、大反響を受けた。

38年に業務拡大に伴い札幌に本社を移転。その後、業界で初めて鋼材で防雪柵を開発し、特許を取得した。さらに防雪柵の改良・開発に取り組み、「自立型支柱折りたたみ式吹払柵」(完全収納式防雪柵)、業界で初の「連動昇降型防雪柵」など次々とヒット商品を開発に成功し、過酷な雪国のライフライン確保に貢献。平成7年には本社を再び小樽へ移転し、製造拠点を東北管

防雪柵・防風柵の専門メーカーの理研興業(株)が創業55年を迎えた。雪国の安全で円滑な道路環境の発展を支えて55年。技術開発・製品開発に投資を惜しまず、高性能・高精度な製品とともに、経済性・安全性に優れた防雪柵の開発を進める、防雪柵診断システムを開発した。

同社は、理化学研究所を母体として新理研工業(株)が、同30年10月、新理研工業(株)として発足。合併後、同30年11月、小樽に本社を置く理研興業(株)が誕生。38年に世界6カ国で特許取得した「理研クロスホルト」を開発し、大反響を受けた。

38年に業務拡大に伴い札幌に本社を移転。その後、業界で初めて鋼材で防雪柵を開発し、特許を取得した。さらに防雪柵の改良・開発に取り組み、「自立型支柱折りたたみ式吹払柵」(完全収納式防雪柵)、業界で初の「連動昇降型防雪柵」など次々とヒット商品を開発に成功し、過酷な雪国のライフライン確保に貢献。平成7年には本社を再び小樽へ移転し、製造拠点を東北管

雪国の道路を支え半世紀余 防雪柵診断システムを提案



創業55年を迎えて 代表取締役社長 柴尾 耕三

品の研究・開発、技術向上に断念なく取り組んできた。日頃堅実な成長を遂げる事ができました。

「これもひとえに、各関係者をはじめ関係者の方々のご理解と温かいご支援のおかげであり、心から厚くお礼申し上げます。厳しい時代の荒波に、柔軟な姿勢で対応し、製品開発・製品開発に

品の研究・開発、技術向上に断念なく取り組んできた。日頃堅実な成長を遂げる事ができました。

「これもひとえに、各関係者をはじめ関係者の方々のご理解と温かいご支援のおかげであり、心から厚くお礼申し上げます。厳しい時代の荒波に、柔軟な姿勢で対応し、製品開発・製品開発に

創業55年の節目を迎え、公共事業に携わる立場から環境対策の取組、新製品の現場から生まれる「新しい発想、創造性を豊かにして社会のニーズに」を、単なる防雪柵を提供するだけではなく、関係機関の方々に高い評価を頂いて参りました。

「これまでの皆様の「厚情」ご支援に心より感謝申し上げます。今後も「助言賜ります様製品・技術を提案し、雪

造を可能とした。メッキは、相馬市に東北最大のメッキ槽を有する環境対策工場を持つ「フロンコーポレーション」が、表面処理のメッキ工程を担当。環境対策を重視する理研興業の精神と合致した。製品の販売は、各県に本社を構える地産地消が行うことが決定しており、地場生産・加工し、地場販売を行う。地域経済の育成に基き、地域企業の育成とともに、雇用創出による地域経済の活性化に寄与することを目的としている。

柴尾社長は「地元ニーズに的確に対応していくことも、東北地域企業の育成も図りたい」と語った。

「これまでも、地場の間伐材を活用した木製防風柵の供給など、地産地消と地元産業の連携を重視しており、東北管内に製造拠点を設置することで東北各地はもとより北陸、中部エリアへの対応も拡大。現場対応をより迅速化させ、ユーザーの要望に応えていく。理研興業のこの姿勢が続く限り、今後も発展し続けていくであろう。

お祝いの言葉

東北大学名誉教授 工学博士 三浦 尚氏

特定非営利活動法人風土学デザイン研究所理事長 作家 田村喜子氏



おめでとうございます。貴社は我が国の代表的防雪柵メーカーとして55年の長きにわたって、雪国の道路の安全確保に貢献してこられました。理研興業の創業55周年をコントロールする事が、

は技術であり、防雪柵は技術に基き、高精度な技術製品であるべきであります。その点貴社は、単に防雪柵を製造するだけではなく、常に良い防雪柵を提供し続けていたことが、求めた技術開発を精神的に求めています。

「防雪柵」と表現は変わって、継続してこられました。それが貴社の製品の信頼につながっていることと思われま。今後とも、この方針を維持され、より良い製品を提供し続けていたことが、求めています。

「北海道浪漫鉄道」を書いたのは20数年前のこと。なる。明治30年前後、鉄道敷設部長として田辺朝郎が、北海道1000マイル路線の調査を行った。物語にまとめたものが、函館ルート(現・函館本線)踏査中のニセコ辺りで部下に「雪垣」について教えるところがある。

風が来る側に柱を立て、その間に横樑を渡す。これにむしるを張り、地面から二尺(約60センチ)隙間をあける。レール上に積もった雪を吹き飛ばす。吹雪も集中的に吹雪が来る。雪垣は全て。だから、雪垣は全て。雪垣は全て。雪垣は全て。

丹保憲仁氏 (独立)北海道立総合研究機構 理事長・元北海道大学 元土木学会会長・工学博士

理研興業の創業55年の道として働き出したのもその頃です。風雪の戦いを、まさに、戦後日本の道路技術の立ち上がりと共に始められた理研興業の先見の明に驚き、その後の真摯な努力発展に敬意を表して、55年の歴史を寿ぎたいと思っております。

「防雪柵」と表現は変わって、継続してこられました。それが貴社の製品の信頼につながっていることと思われま。今後とも、この方針を維持され、より良い製品を提供し続けていたことが、求めています。

(株) 秋田デイトライント 代表取締役社長 今 海	(株) マンローコーポレーション 代表取締役社長 富永 永久	(株) 角弘 代表取締役社長 小田 健	AGC AGCマテックス(株) 代表取締役社長 秋山 修	泉商店(株) 代表取締役社長 下坂 和臣	日新製鋼(株) 北海道支店 支店長 吉本 隆	共栄(株) 代表取締役社長 加賀谷 正之	日本鐵板(株) 北海道支店 支店長 廣野 善雄	幸和機械(株) 代表取締役社長 福田 幸一	橋爪商事(株) 代表取締役社長 宮澤 信平	(株) 三尺堂商店 代表取締役社長 佐々木 満	日新製鋼(株) 北海道支店 支店長 吉本 隆	JFE JFE建材 代表取締役社長 大出 直文	メタルテック(株) 代表取締役社長 木野 保幸	山形酸素(株) 代表取締役社長 大場 正仁	新日本製鐵(株) 北海道支店 支店長 遠藤 善哉	ニヤ商(株) 東北支社 支店長 石黒 誠	(株) シンワ 代表取締役社長 熊坂 好朗	YOSHIZAKI (株) 横森製作所 代表取締役社長 有利 明昭	RIKEN (株) 理研油圧興業 代表取締役社長 濱田 俊司	(株) 第二物産 代表取締役社長 神村 順	五十音順
------------------------------	-----------------------------------	------------------------	---------------------------------	-------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------------	--------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	--------------------------	-----------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------	------